会　　議　　名	令和８年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会
事　　務　　局	市民部　コミュニティ文化課
開　催　日　時	令和８年５月１５日（金）１８時３３分～２０時１１分
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 松山真弓委員 畑島一代委員 伊藤　崇委員
欠　席　委　員	平田勇治委員
事　務　局　員	コミュニティ文化課協働文化係　　兼堀　佐原 同　　はけの森美術館学芸アシスタント　永井 同　　はけの森美術館学芸顧問　河合
傍 聴 の 可 否	可
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由	傍聴者数　０人
会　議　次　第	⑴　展覧会「春のアトリエ―花を描く―」の観覧 ⑵　委嘱状の交付 ⑶　委員自己紹介 ⑷　事務局紹介 ⑸　会長・副会長の選出 ⑹　運営協議会の運営等について ⑺　事業実施報告 ⑻　令和８年度の事業予定と予算について ⑼　その他
会　議　要　旨	別紙のとおり
提　出　資　料	資料１　小金井市立はけの森美術館運営協議会委員名簿 資料２　意見・提案シート 資料３　事業実施報告 資料４　日程表 資料５　令和８年度予算状況について

令和８年度　第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会

令和８年５月１５日（金）

【事務局】　　皆様、こんばんは。

それでは、ただいまより、令和８年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

本日、会長が選出されるまで進行を務めさせていただきます、コミュニティ文化課協働文化係の兼堀と申します。

本日は御多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

議事に入る前に、委員の出欠について報告いたします。

本日、平田委員から欠席の御連絡をいただいております。現在、委員定数６名中５名の出席をいただいております。半数以上の出席をいただいておりますので、本協議会として成立することを報告いたします。

次に、本日お配りした資料の確認をさせていただきます。

本日の次第と、それから資料が計５点、資料１から資料５までとなっております。御確認いただいて、過不足等があればお声をかけてください。大丈夫ですかね。

それでは、次第の議事１の展覧会の観覧につきましては、既に皆様、御覧いただけたかと思いますので、次の議題に進ませていただきます。

議事２、委嘱状の交付についてです。

皆様のお手元に配付させていただいておりますので、委嘱状のほう、御確認をお願いいたします。本来であれば、市長が参りまして委嘱状の交付をするところでございますが、市長がほかの公務のため、机上にて委嘱状のほうを配付しているところでございます。市長からは、くれぐれもよろしくお伝えくださいということでございました。

なお、委員の任期につきましては、令和８年４月１日から令和１０年３月３１日までとなっております。

次に、議事３、委員自己紹介です。委員改選後初めての協議会でございますので、皆様順番に、一言自己紹介をいただきたいと思います。

資料１の委員名簿を御覧ください。大変恐縮ではございますが、名簿の上のほうの方から順番にお願いしたいと思います。

それでは、松山委員、お願いいたします。

【松山委員】　今期から、こちらの委員に着任しました松山真弓と申します。小金井市に昨年の４月に転居してきました。こちらのはけの森美術館は、今年の頭に、そろそろ近所に美術館があるから行ってみようかとホームページを調べておりましたら、とても魅力的な美術館がこちらにあるということを知り、また、こちらの公募があるということも知りまして、私でいいのかと思いましたが、応募させていただきました。

もともとは宮崎におりまして、１６年間、市の文化施設でアートに携わる仕事をしておりました。美術は専門ではないのですが、アートと市民をつなぐような仕事を今までずっとしてきましたので、市民目線でこちらには参加したいと思っていますが、今までのバックグラウンドを生かしての発言もできたらなと思っております。

勉強させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【鉄矢委員】　音楽とか演劇だったのですか。

【松山委員】　いえ、主に展覧会の企画運営です。みやざきアートセンターという市の施設ですが、指定管理団体のＮＰＯ法人が運営しています。私はＮＰＯ法人の職員でしたが、中心市街地活性化のためにアートを使って何かをするということで、主に展覧会の運営と企画を主軸にやっておりました。

【鉄矢委員】　美術の展覧会ですか。

【松山委員】　美術というか、広くアートですね。サブカルからファインアートまでという感じです。

【山村委員】　それをアートと言うのですよね。

【松山委員】　そうですね。エヴァンゲリオン展やファッションデザイナーの鳥丸軍雪という方の展覧会、あと、生頼範義というイラストレーターの作家さんの作品も、寄託を受けており、その方の展覧会も開催しました。

【鉄矢委員】　美術とアートの言葉を使い分けているので、ちょっと。

【山村委員】　かなり新鮮ですよね。

【松山委員】　そうですかね。ここは私の中では美術ですけれども、私の前いた職場のアートセンターだとアートかなという、何か私の中での微妙な線引きでございます。

【鉄矢委員】　ありがとうございます。

【事務局】　ありがとうございます。

続きまして、畑島委員、お願いいたします。

【畑島委員】　畑島一代と申します。前年度というか、前２年に引き続き、今年もよろしくお願いいたします。

ふだんは、小金井市内の介護支援事業所でケアマネジャーをしています。今日も御利用者さんとかでいろいろあったのですが、自転車をこいで、何とか間に合ったのでほっとしています。

いつも来ても自分の意見も何も言えず、聞いているばかりで、参加していていいのかと思いながらも、今年こそはちょっと爪痕を残せるように、発言できるように頑張っていきたいと思っております。

小金井市には、いっとき離れていたこともあるのですけれども、南小学校の２期生です。かなり長く住んでおります。

【鉄矢委員】　そうなの。

【畑島委員】　よろしくお願いします。

【事務局】　ありがとうございます。

続きまして、鉄矢委員、お願いいたします。

【鉄矢委員】　３番目に名前を連ねています、鉄矢悦朗です。鉄道の「鉄」に弓矢の「矢」と書くのですけど、「鉄」の字が金を失わない字になっておりますので、縁起を担いでいるのですけども、あまり金はたまっていない鉄矢でございます。

東京学芸大学に着任して、もう二十何年になります。その前は、鉄矢悦朗建築事務所というのをやっていて、それから学芸大学のほうに入って、すぐに、中村研一記念美術館のほうがこっちに移るちょうどその頃だったと思うのですけど、小金井市のほうに勝手に学芸大と連携しないかという企画を出したりしていたんですけども、ちょうど小金井市が受け取るときだったので、どこかでお蔵入りした企画書になっています。

学芸大学ではデザインを教えていて、昨年まで、美術と音楽と体育の学系が、芸術・スポーツ科学系というのですけど、学系長というのをやっていて、やっとその任が解かれまして、今年度からやっと任が解かれたと思ったら、学芸の森保育園の園長に手を挙げてしまいまして、今、保育園の園長で、８時半に子どもが登園してくるのに、「おはよう」と手を振る役をやっています。自分で、似合わないなというか、何か困ったなみたいな。

【山村委員】　いや、似合いますよ。

【鉄矢委員】　いやいや。朝そんな早くなかった人間なのですけど、今、せっせと頑張っております。

こちらに関わるときに、以前、学芸顧問だった薩摩先生というのが実は大学の恩師で、恩師といっても薩摩先生が一番若いときに教えた大学院生の中では一番老けていた大学院生だったので、いろいろ生意気な口も聞きながら、薩摩先生にいろいろ教えていただいて、美術館とか学芸員の面白さを感じています。

そこで、やっぱり学芸員を応援するのも運営委員会というのもそうだし、運営委員会が美術館を突き上げることもしなければいけないと思っていますし、両方やるのが運営委員会だと思っていますので、厳しくもあり優しくもあり、支援していきたいと思っております。

よろしくお願いします。

【事務局】　ありがとうございます。

続きまして、山村委員、お願いいたします。

【山村委員】　山村仁志といいます。４番目です。

一応、学識経験者と書いてありますけども、府中市美術館というところに、開館したのが２０００年ですが、その９年前から準備室ということで勤めていて、ちょうどバブルがはじけた時期ですね。１９９１年に長野の美術館から移ってきて、あと２年後にできるよと言われて、９年延びたと。

【鉄矢委員】　９年も延びたのですね。

【山村委員】　ええ。その間に、本当に美術館が必要なのかなということで、住民運動が起こりまして、反対運動とか、そのための市民懇談会とかができて、その対策をやっていて、同時に跡地の問題だとか、いろいろ紆余曲折はあったのですが、結果的に賛成のほうが反対よりも大体倍近く、１０，０００対５，０００ぐらいだったのですけど。本当に市議会の特別委員会で、両方で議論をやったりとかして。

そういうことがあって、準備室からいて、美術館ができて１５年目ぐらいに、東京都美術館のほうに来ないかと言われて、学芸課長として１２年前に行きまして、昨年の２月か３月に突然館長として戻ってこいと言われて、喜んで戻ってきたのですけど、いろいろありまして、結構大変だなと。

つい最近、長沢蘆雪という展覧会が、すごく人が入って、結局８万人以上入ったのですけど。

今までの最高が４万５，０００人だったので、大体倍ですね。これをやった学芸員の金子さんはずっと準備室時代からの同僚だったのですが、江戸絵画でやる集大成だとかとい

うことで、江戸ブームもあるし、かわいい部分もあるし、蘆雪はその両方に引っかかって大人気だったのですが。

そういうようなことで、府中市美術館のほうもそれなりには頑張っているところですけども、実際のところはそんなに順調ではなくて、やっぱり今、本当に市の美術館、ここも含めて、非常にいろんな、社会がどんどん変わってきているし、税収もどんどん変わってきている、社会のいろんな仕組みも変わってきているということなので、本当に必要な美術館って何だろうかなという、また考えながらやっているところです。

先ほど言われたところ、アートというものと美術というものとが、どう絡むのか、サブカルと漫画と、あと音楽とか、そういうポピュラーなものと美術がどう絡んでいくのかなと。決して昔みたいにハイカルチャーとローカルチャーがあって、サブカルとメインカルチャーがあって、美術館が何となく高級なふうに見られているような時代はもう去ったと思っておりますので、勉強させてもらいたいなというふうにつくづく思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

【事務局】　ありがとうございます。

最後に、伊藤委員、お願いいたします。

【伊藤委員】　令和８年４月１日付けでコミュニティ文化課長兼はけの森美術館館長に着任いたしました伊藤と申します。よろしくお願いします。

私も前職場が全くこういう美術館とか関係ない、健康部門の分野のところから異動してきまして、今こういった美術館、美術系のところは勉強していきたいなというふうには考えております。前任の中川のほうからは、はけの森美術館の課題とかもいろいろ伺っていますので、課題解決に向けて、委員の皆さんの意見などを参考にしながら、よりよい美術館運営に努めていきたいなというふうに考えてございます。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】　ありがとうございます。

本日欠席の平田委員を含めて、委員６名で構成しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、議事４、事務局の紹介でございます。

事務局をしているコミュニティ文化課ですけれども、実は係の名称ですが、昨年度まで文化推進係でしたけれども、令和８年４月１日付けで協働文化係となりましたので、御報告いたします。

それでは、改めまして、協働文化係長の兼堀でございます。よろしくお願いいたします。

次に、協働文化係主事の佐原でございます。

【事務局】　佐原です。よろしくお願いいたします。

【事務局】　続きまして、はけの森美術館学芸アシスタントの永井でございます。

【永井学芸アシスタント】　永井友梨と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局】　最後になりますが、学芸顧問の河合先生です。

【河合顧問】　河合です。先ほど新しく委員になっていただいた松山さんのロゴを見まして、仲間がいるという感じだったので、山村先生を含めてで、これまでいろいろと苦楽を共にした人もいるし、それから逆に言えば、ここのことを一番詳しく多分御存じな方は鉄矢先生。そういうもろもろの人たちからお知恵を拝借しながら、少しでも運営をお手伝いできればいいと思っております。

ちなみに、初代の学芸顧問が薩摩さんという、先ほど彼の先生だと言いましたけど、僕は薩摩の先輩で、薩摩は僕のことを外に対しては先生だと言っていましたので、孫弟子かいねというのだけど、それは冗談、ほとんど大した意味はないですけど、それぞれが得意な分野では、それぞれがやっぱり学ぶことが多いです。

よろしくお願いします。

【事務局】　紹介は以上となります。

それでは、続きまして、議事５、会長・副会長の選出を行いたいと思います。

会長・副会長の選出については、小金井市立はけの森美術館条例施行規則第６条第１項の規定により、委員の互選によることとなっております。

会長について、どなたか立候補または御推薦がありましたら、お願いいたします。

【山村委員】　推薦でいいですか。

【事務局】　はい。

【山村委員】　すみません。今の話からも、鉄矢先生が一番古くからはけの森美術館、中村研一記念館のことを御存じなので、ぜひもうちょっとやっていただければなと思ったので、よろしくお願いします。

【事務局】　ただいま山村委員より、鉄矢委員を会長にとのお話でございました。

鉄矢委員に会長をお願いすることに、御異議はございませんか。

（「異議なし」の声あり）

【事務局】　御異議がなければ、鉄矢委員を会長とすることに決定いたします。

それでは、鉄矢会長から一言御挨拶をお願いいたします。

【鉄矢会長】　こんばんは。保育園の園長から、夜は会長になります。

本当、先ほども言ったのですけれども、応援することもできるし、突き上げることもできるのが運営委員会だと思います。やはりそれぞれのいろんな視点から、それがいいかどうかというのは、言わないと、飲み込んでは駄目だと思うのですね。言った上で、ほかの人からもいろんな意見があるし、その中でよりよい、一歩でもよいものをということを努めていきたいと思っております。

まだまだ学芸員が少ないとか、いろんな問題、開館がどうだとか、準備がとか、山のような課題があるのですけれども、でもやっぱり市民の中にはここをすごく頼りにしている方もいらっしゃいますし、子どもたちには、小金井市民である小学生、４年生か何かは全員来ているというのが何年も続いているという、多分、全国でも希有な活動だと思うのですね。

ぜひそんなことも支えながら、みんなで頑張っていきましょう。よろしくお願いします。

【事務局】　ありがとうございました。

それでは、会長が選出されましたので、今後の進行については会長にお譲りしたいと思います。

鉄矢会長、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　それでは、引き続き副会長の選出を行いたいと思います。

どなたか立候補または御推薦がありましたら、お願いいたします。

【伊藤委員】　推薦でお願いいたします。副会長には同じく学識経験枠で委員となられております、山村委員を副会長に推薦いたします。

【鉄矢会長】　ただいま伊藤委員より、山村委員を副会長にとのお話がございました。山村委員に副会長をお願いすることに、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

【鉄矢会長】　御異議ないようですので、山村委員を副会長とすることに決定いたします。

山村副会長から一言御挨拶をお願いいたします。

【山村委員】　引き続きということなので、鉄矢委員の補佐ができるように頑張ってまいります。よろしくお願いします。

【鉄矢会長】　ありがとうございました。

それでは、議事６番、運営協議会の運営等について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】　それでは、会議の運営について御説明させていただきます。

会議は年３回程度の開催を予定しておりまして、内容については、事業の報告と今後の予定の大きく２点について御報告、御説明が中心となります。事業の報告は、基本的には前回の会議開催以降に実施した展覧会やワークショップなどの事業について報告させていただくもので、今後の予定については、これから開催される事業等について事前に説明をさせていただくものでございます。それぞれ担当の学芸員を中心に御説明させていただいた上で、委員の皆様から御意見等いただく形となります。

次に、会議録と会議の傍聴についてですが、会議録は発言者名を明記した全文記録となりますことと、会議については原則公開となり、傍聴も認めております。

なお、発言者名を正確に把握するために、審議会では発言は挙手をしていただき、会長が指名した後、御自身の名前をおっしゃってから発言するようにお願いいたします。

会議録は、委員の皆様にも校正いただいた後、ホームページにて公開させていただくことになりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、意見・提案シートについてです。

資料の２を御覧ください。こちらの意見・提案シートは、傍聴者やその他市民等から当該委員会の協議内容について御意見をお聞きするために設置するものでございます。ほかの委員会でも導入のほうが進んでおりまして、運用方法としましては、意見・提案シートを設置した上で、資料として取扱いをしている委員会が多いようでございます。当運営協議会においては前期から導入しておりますので、事務局としましては、引き続き導入したいというふうに考えております。

事務局からは以上でございます。

【鉄矢会長】　会議の進行などについて、事務局から説明がありました。このような形で進めていくことになりますが、何か質問、意見などありましたら、お願いいたします。

鉄矢からですけれども、今、「審議会での発言は」という言葉があったのですが、審議会ではなく、運営委員会での発言でよろしいですか。

【事務局】　本運営協議会も審議会等という形の中の一つというような位置づけでございますので。

【鉄矢会長】　審議会と呼んだのですね。

【事務局】　　はい、そういうことでございます。

【鉄矢会長】　　分かりました。

あと、新しく委員になった方と、それから私もそうですけど、運営委員会の条例、何を決めてどういうものをやるんだというのを一度お配りいただいたほうが確認のためにもいいと思うので、何をしなければいけないとかというのを一度確認させてください。

【事務局】　　大変失礼いたしました。本日御用意はしていないのですけれども、後日メール等にて各委員のほうにお配りしようかと思います。

【鉄矢会長】　　どこのホームページに書いてあるでもいいと思うのです。

【事務局】　　かしこまりました。

【鉄矢会長】　　我々がどこに行けば、これは審議して諮問にちゃんと答えなければいけないのか、そうではないのかとか、そういうようなところが知りたいと思うと思いますので、よろしくお願いします。

【事務局】　　承知しました。ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　そのほか、質問、御意見等ありましたら、よろしくお願いします。

ないようであれば、次の議題に入ります。

事業実施報告という議事７番、事務局から説明をお願いします。

【事務局】　　それでは、事業実施報告について御説明いたします。

資料の３を御覧ください。

まず、１の（１）開催中の展覧会の御報告でございます。

現在開催しております所蔵作品展「春のアトリエ―花を描く―」を、令和８年４月２日から５月２４日までの期間で開催しております。開催時間が午前１０時から午後４時半まで。休館日が月曜日、火曜日、水曜日でございますが、ゴールデンウイークの５月４日と５月５日は開館をしております。観覧料は一般が２００円、小・中学生が１００円、未就学児および障がい者手帳をお持ちの方とその付き添いの方１名は無料となってございます。主催は、はけの森美術館となっております。

その下の概要のところでございますけれども、記載のとおりでございますが、中村研一による「自然」や「花」を主題にした作品を中心に展示しており、自然豊かな小金井での妻との平穏な日常をイメージしてもらうことを意識したものになってございます。１階の展示室では油彩や水彩を中心とした展示、２階の展示室は陶磁器を中心とした特別展示となってございます。

入館者数につきましては、資料にあるとおり、４月末時点では合計３５６名となっております。なお、４月は１７日間の開館のため、一日当たりの平均は２１名程度となっております。なお、資料にはございませんが、本日時点の入館者数でございますけれども、小・中学生含む一般の方が５６６名、招待券をお持ちの方が９３名の、合計６５９名となっております。

続きまして、その下の関連企画のところでございます。

まず、３月２１日の土曜日にギャラリーコンサート「トリプルチェロズ・コンサート」を実施いたしました。こちらは当館と武蔵小金井駅前にある小金井　宮地楽器ホールとの共催で開催しているコンサートイベントでございます。小金井市にゆかりのある３人のチェロリストで結成されたトリプル・チェロズを迎えて開催いたしました。参加費のほうは、チケット代として１，０００円を頂いております。定員が４０名ですけれども、お申込みのほうが倍以上のお申込みがあったというふうに聞いており、抽選のほうを行っております。会場のほうは１階の展示室。当日につきましては、参加者は３９名というふうになってございます。

次の学芸顧問によるギャラリートークにつきましては、今説明いたしましたギャラリーコンサートの一環として実施し、当館学芸顧問の河合先生に、展覧会の見どころや作品について解説していただきました。

時間としましては、午後１時から午後３時までがコンサート、その後、午後３時から３時１５分までがギャラリートークと、連続した形での実施となっております。

続きまして、ワークショップのほうを２つ実施しておりますが、こちらにつきましては、学芸アシスタントの永井のほうから説明のほうを差し上げます。

【永井学芸アシスタント】　　学芸アシスタントの永井です。私が担当いたしましたワークショップ２つを御紹介いたします。

まず、１つ目が、マルチアーティストのMU氏を講師としてお招きしたエイジングペイントワークショップ、こちらを今年の３月２８日土曜日の１時から３時の間で、こちらの２階多目的講義室で行いました。

内容といたしましては、参加者が持ち寄った小物などにペイント加工を施して、エイジング、古びたような加工をして味を出すという体験型工作ワークショップでございました。定員が１５名で、市役所ロゴフォームから事前申込制で、ペンキ代が少し高かったので、材料費として、参加費はお一人から２００円頂戴いたしました。

ペイント加工したい缶製品やスマホケースがあれば御持参くださいという案内もホームページに掲載していたのですが、こちら、実際に持ち込んだ方はお一人だけでございました。あとはMU先生が御用意してくださったプラスチック製のペンケースにそれぞれ皆さん加工を施し、最終的には参加者数は１３名でございました。

直近ですと、５月５日の火曜日、こどもの日に、同じくこちらの会場で午後１時から３時にかけて、私、永井が講師を務めた展覧会関連制作ワークショップということで、「花や自分の大切なものを表現してみよう」というワークショップを開催いたしました。こちらが身近な幸せやお花というものが今回の展覧会のテーマでございましたので、展示会場や緑地を散策して、何か琴線に触れたものをテーマとして決めて、描くものを決めて、花や自分の大切なもの、人、何でもいいので、表現してみよう、身近な幸せに改めて目を向けてみようという展覧会関連のワークショップでございました。

対象は中学生以下で、参加費は、こちらで用意できるものだけでやりましたので、無料となっております。こちらも市役所ロゴフォームを通じた事前申込制で、定員１５名のところに対し参加者は１０名と、あとプラス赤ちゃんもいたので、プラス乳児なので、厳密には１１名でございました。

私のほうからは以上でございます。

【事務局】　続きまして、最後になりますけれども、中村研一の誕生日が５月１４日ですが、そちらを記念しまして、無料開館日のほうですけれども、例年その前後の日曜日としておりまして、今年度につきましては５月１７日を設定しております。

なお、今後の展覧会・教育普及事業等につきましては次の議題で説明いたしますので、ひとまず説明はここまでとさせていただきます。

会長、お願いいたします。

【鉄矢会長】　事務局から説明がありましたが、何か質問、意見等ありましたら、お願いいたします。

【山村委員】　山村から質問ですが、今、自己紹介を事務局にしていただいたのですけれども、学芸員の今のメンバーを説明していただけるとありがたいんですが。

【事務局】　学芸員ですけれども、学芸員の中村と、もう一人、宇田川の２名になっております。

以上でございます。

【山村委員】　宇田川さん、中村さんとも、非常勤職員ということでいいのかな。それ

とも？

【事務局】　お二人とも会計年度任用職員、昔でいう非常勤職員という扱いになっております。

【山村委員】　分かりました。今回の花の展覧会は、中村さんの担当ですか。

【事務局】　今回につきましては、なかなか学芸員の体制も難しいところがございまして、学芸顧問の河合先生などにも御意見をいただきながら進めさせていただいたというふうに聞いております。

以上です。

【河合顧問】　実際には去年、学芸員として紹介した学芸員がいたと思うのですけども、３月いっぱいで事情がありまして退職となりました。その退職がほぼ決まったりしていたものですから、展覧会自身が、というか実行までいけない状況になりそうだったということで、事務局のほうで一応基本は預かって、そして学芸アシスタントの彼女も含めて、それからいつもの中村さんと、ここの中での総括的なということを私がやって、展示とライティングまで持っていったという形なので、誰がといわれると、お恥ずかしいのですけども、珍しい展覧会で、総力戦。悪く言えばドタバタ。そこまでは言っていいことかと思います。

だから非常に特殊なので、僕が今日はしゃべらなきゃいけないと思っていたのですけども、細かい数字分からないと思っていたのが、しゃべる必要はないと言われたので、そこに関しては言わなかったのですけども。事情はそういう事情があって、担当がいなくなったということから、それがぎりぎりに決まったので。

【松山委員】　展示とライティングは、それでは学芸員さんがされたのですか。

【河合顧問】　いや、展示というか、仕切るという意味ですよ。展示作業に関しては委託事業者が、人数２人ぐらいですけど、２日間で行い、それで照明が、この規模では珍しいのですけども、プロフェッショナルの人が最初から入っていまして、その人にこちらが細かく指示してやっていると。

【山村委員】　展示の割りつけは河合さんがやったのですか。

【河合顧問】　いや、みんなで。アバウトには、最後の割りつけというか、細かいキャプションをこっちにしろ、あっちにしろまでを含めたのは僕がやったけども、それこそ前任の係長が総元締めでやっていたというところですけども。

【山村委員】　なるほど。

【河合顧問】　それなので、代わってしまわなければそのままだったかもしれないけども、代わったので、今日は後任の係長が説明をしたと、こういうことだと思います。

【山村委員】　もうちょっとごめんなさい、余計なことかもしれないけど、中村ひのさんは分かるんですけど、もう一人は何という方でしたっけ。

【河合顧問】　宇田川さん。

【山村委員】　宇田川さん。

【事務局】　宇田川さんにつきましては、この４月１日から入っていただいているのですけれども、今年度、年報の作成がございますので、今そちらのほうを担当してございます。というお答えで、大丈夫ですかね。

【山村委員】　はい、分かりました。何か大変な感じでやっているのですね。

【鉄矢会長】　そのほかはございますでしょうか。

【松山委員】　ちょっといろいろ質問になるのですけれども、ワークショップの参加費が無料だったり、安く設定しているのは、何か理由があるのですか。さっき２００円のところが、ペンキ代分が高かったのでもらったと言われたので。

【永井学芸アシスタント】　学芸アシスタントの永井です。基本的には無料で行いたい方向でいつも考えているのですけれど、今回、外部からMUさんというアーティストをお呼びして、MUさんに基本的に材料をそろえていただいたのですね。それでペンキもMUさんが購入してくれたものを持ってきてくださるとのことだったので、一応ペンキ代が一個５，０００円するので、ちょっと高額なので、お一人当たりから材料費ということで２００円頂いて、そちらをペンキ代にはちょっと足りないのですけれど、納めていただいたということでございます。

基本的に外部の講師の人に頼んだとき、材料費がかかってしまうというときは、こうやって２００円くらい、少額ですけれど頂いております。

【松山委員】　分かりました。

【河合顧問】　基本的には、河合ですけども、いつも横から見ているだけですけど、この会場を基本使って、材料とか道具は、大体のものはこちらで用意してあって、それが足りなくなったらまた補充するみたいになっていて、それをベースにしていろいろ、例えば外に出ていってやるとか、ここでまたやるとかをしているものですから、無料で何とかできると。

ただ、今言ったように、特別なものを使うとなると、そこに実費としてかからざるを得

ないということだと思いますね。

【松山委員】　限られた予算の中でできる限りのことをするということですね。

【河合顧問】　そうですね。

【松山委員】　参加される方からは参加費を取らないというスタンスで、基本はされていると。

【永井学芸アシスタント】　はい。

【松山委員】　取るということは考えていないのですか。

【事務局】　市の事業としてやっているものなので、原則なるべく無料のような形でやらせていただいております。それこそ担当する方たちの創意工夫によって、成り立っているのかなというところもございます。

【松山委員】　過去の教育普及の事業も、ざっとなんですけど見せていただきましたが、非常にラインナップがあって、すごく練り込まれていて、私的にはすばらしいなと思いました。

【永井学芸アシスタント】　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　ちゃんと講師謝金は出ているんですよね、外部の方には。

【河合顧問】　外部の人は大丈夫です。それはボランティアではないです。鉄矢先生にだったら、ちょっと相談だけどといって、今度トークショーでしゃべってと僕からお願いするかもしれないけど。

【鉄矢会長】　そのほかありますか。

【松山委員】　すみません。

【鉄矢会長】　いえ、どんどん聞いてください。こういうときに聞く、いいムードでどんどん聞いて、分からないことはどんどん聞いて分かっていくというのが、まず運営委員会のスタートだと思うので。

ないでしょうか。大丈夫ですね。

それでは、次が令和８年度の事業予定と予算について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】　それでは、令和８年度の事業予定について御説明いたします。

資料につきましては、資料３の２ページ目の下のほうにある、２の今後の展覧会・教育普及事業等のところと、あと、資料４の年間スケジュールを御覧いただければと思います。

まず、今後の展覧会につきましては、９月中旬から１１月中旬頃に、当館の開館２０周年を意識した展覧会のほうを企画しているところでございます。

さらに、年が明けました１月下旬から２月中旬頃に、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が共催で実施しています、アールブリュット展のほうを当館で開催できるような形で企画しているところでございます。

なお、両方とも展覧会関連企画につきましては、現在のところまだ企画のほうが立っておりませんので、未定となっております。

教育普及活動につきましては、資料３の３ページ目のところを御覧いただければというふうに思います。

こちら、鑑賞教室について御説明ですけれども、昨年度まで市内の小・中学校全９校で実施していたところでございますが、今年度学校側から、希望する学校において実施したいというふうに御要望がございまして、希望を聞いたところ、今４校について実施する予定でございます。実施時期等につきましては、今後学校側と調整になりますので、現在のところは未定とさせていただいております。

続きまして、予算について御説明のほうをいたします。

資料につきましては、資料の５を御覧いただければと思います。

上のほうに表があるのですけれども、表中では、各事業に対し昨年度の当初予算額、今年度の当初予算額、それと増減額について示しており、単位は千円単位というふうになっております。

１つ目のはけの森美術館の運営に要する経費では、人件費の調整による増額、及び３年に一度作成する年報の予算が計上されており、若干の増額というふうになっております。

２つ目のはけの森美術館の維持管理に要する経費では、害虫駆除や、低濃度ＰＣＢ廃棄物処理のための委託料ですとか、附属の喫茶棟に係る修繕についての予算のほうが計上されております。

３つ目のはけの森美術館事業に要する経費では、美術館２０周年を記念したワークショップ等の予算のほうが計上されてございます。

最後に、はけの森緑地維持管理に要する経費では、昨年度、樹木台帳の更新の予算が計上されておりましたが、その分が今年度は計上されておりませんので、減額というふうになっております。

簡単ではございますが、以上となります。

【鈸矢会長】　ありがとうございました。

何か御質問、御意見等ありましたら、お願いいたします。

鉄矢です。小学校はもう少し事情の細かいことって分かるのですか。というのは、断る理由というか。

【事務局】　こちらといたしましてはできれば多くの学校を受け入れたいという気持ちがあるのですけれども、学校側の図工の先生のお話を聞く感じですと、学校の授業でそもそも忙しいとか、やはりちょっと開館の日程と合わせるのが難しいというような意見とかも出ているところでございます。

以上でございます。

【鉄矢会長】　全校でやらないのはちょっと残念ですね。

【河合顧問】　おっしゃってくださったように、例えば世田谷美術館では、小学校と区の中学と２回にわたってですから、もっとここよりすごいのですけども、でも必ず公立の小学校にいた子たちは一回はここに来て、まず美術になじむというのがあって、それからいろいろと自分がどうしたいのかがあったと思うのですけども。

それは当初、聞いているところですけども、最初にこれを始めた頃は、それぞれの先生方が、美術館ができて一緒にやっていくんだという意欲が物すごくあったらしいのです。それをうまく受ける形で、ちょっと遠めの人はバスを仕立てて、それはこちらのほうで仕立てるわけですよね。あと、近い子とかはトコトコと来るという形だったのですが、先生たちも代替わりしていく中で、今言ったように、取りあえず今ここで、現場で教えるほうが大変になって、外まで連れてきてというのがしんどいという意見が何人か出てきてしまって、強制に近いことはできないということで、手を挙げてくれたのが、今４校ですか、今回は、という形だったのです。

だから、どういうふうにすればまた来てくれるかとか、共同でできるのかという、細かい検討みたいなのはまだしていないと思います。

【鉄矢会長】　鉄矢です。２コマの図工の時間で終わるわけではないので、きっとどこかを潰さないとできないというので。

【河合顧問】　そうです。

【鉄矢会長】　そうすると、図工の先生だけの話で済むわけではないのでというのと、

でも、話合いというのは小学校の図工の先生たちがまず話し合ってくれていて、そこから学校に戻していって、学校に戻しているときにいい反応がなかったという話になると、動けなくなってしまうのですよね。難しいな。

【河合顧問】　ですから、本当に学校として積極的な場合は、先生が船頭で、詰めに当

たる人が校長先生だったりして、指導してくれたりしていたのですよね。でもそれが、だんだんとやっぱり全体でというのがなくなってきたのかな。そうすると、図工の先生だけで処理しなさいとなってきてしまった部分があると思うのです。

でも、頑張ろうという先生がいる場合は、またそこから校長先生とか何かに協力を頼むとか、同僚に頼むにはなるでしょうけど、そこまでは現実的には介在してないということです。

【松山委員】　例えば美術館を訪れるのも、遠足などの校外学習の一つとして、４年生は全員行くというように、その１か所だけを取り扱ったりすれば、図工の先生だけの負担というのは少なくなったりはしないですか。

【河合顧問】　校外授業で、全体として、はけの森の見学案というのもしたりしているのですよね。あとは、外のほうでやっている例のくじら山というのがあるのですけども、そこでのワークショップなんかの流れからこちらに来てくれるとかはありましたが、現時点での、これまでやっていたような学校の先生方に委ねて、希望の会、こちらが展覧会をやっている間、この枠の中でどこか選んでくださいという形の中では、結構間口が狭くなってきているということだと思います。

【松山委員】　来たときには、ギャラリートーク等はされるのですか。

【河合顧問】　はっきり言って、ここは今、学芸員と称する人間が何人もいるような感じですけども、その人たちが常に対応できるという状態にはないと思います。毎日必ず学芸員が出張っているのではないよね。

【鉄矢会長】　そうですね。でも、学校のときはいますよね。

【河合顧問】　それはだから、今はそうじゃないですね、彼女が言ったのは。

【鉄矢会長】　学校のときですね。

【松山委員】　そうです。今のは学校の方が来たときに。

【鉄矢会長】　普通に学校で予約して学校の団体で来たときには、ちゃんと学芸員が対応しているわけですね。

【河合顧問】　できますね。

【松山委員】　すみません、いろいろ質問が多くて申し訳ないです。

【河合顧問】　どうぞ。アーツカウンシルにフィードバックしてください。

【鉄矢会長】　ワークショップをできるだけ無料で続けたいというのも、多分美術館に本当に足の向かなかった子どもとか親子とか、そういう人たちにも向いてほしい。その機

会はつくってはいるけど、実はその人たちにはなかなか届かない。そのためにももう一個、小学校というところで全員が経験することによって、行ったよとか、その２つで多分この美術館のすごいよさがあったと思うのですよ。そのうちの無料でやっているよというのは、やっぱりこのまま続けても、実は届かないところにはずっと届かないというところで、小学校に何とかその辺が伝わって、行くといいよとか、行かなかった子がここに来るということになるといいのだろうなと思うのですね。

本当に小学校低学年の中で美術館に行くということを体験するということを、何か一つの体験、多様な体験をしなければいけないものの一個の体験だから、小学校で一個やっておけばいいなと思うので、私は、運営委員会としてはかなり残念だという記録を残したほうがいい。それは運営委員会として、美術館自身の事務局に、これはとても残念な報告ですというふうに記録として残してもらいたいように思うのですけど、皆さん、いかがでしょうか。

【山村委員】　山村ですけど、もともと府中市美術館でも、２５年間ずっと鑑賞教室は、小学校は全学校でやっていて、中学校は夏休みの宿題で感想文を書いてくることって出して、それを二十何年間やってきているのですけども、確かに大変。特に最近バスが高くなって。

【鉄矢会長】　高くなり、安全とね。

【山村委員】　運転手がいないので、それを最初から美術館が負担するということでやってきたのですけど、美術館のほうの予算もなくなってきて、今本当に大変なので、やっぱりそうすると学校の先生のほうでどれだけ頑張ってくれるかって話になるのだけれども。

でも、それを図工先生だけが、だけでというのはちょっとおかしな話で、というのは小学校で必ず来てほしいというのは、単に選択的な美術ということではなくて、いろんなマナーとか、作品というものを、既に死んでしまった人の作品とか、今この世にいない人の作品をちゃんと尊重して見るという、そのためには走らない、騒がないというようなことのマナーを学んでもらうために、小学校時点から教育のためにやっているということで、校長先生も校長会の場では納得してくれたのですよ。そういう側面を強調することによって。でも、どこかで問題をすり替えられていて。

美術館を市がつくっていて、そうやって運営していることの意味というのを、教育的見地から見るというようなところでやらないと、選択的に美術とか、いろんなエンターテインメントとかがある中で、美術が好きな人が見ればいいのではないかみたいなことではな

いと思うので、すごく大事なポイントですよね。

【伊藤委員】　すみません、いいですか。伊藤です。

今日、欠席されているのですけど、平田委員が教育委員会の職員なので、今回、運営委員会でそういった意見があるというのは、議事録も平田先生のところには行きますので、それを残して、教育委員会にそのような形で伝えていければいいのかというふうには考えます。

【河合顧問】　たしかこの前のときもこの話題になって、こういう状況で全部いなくなったというときには、平田さんも来てくださっていて、対応についても少しお話があったとは思うのですけども。

【伊藤委員】　私のほうからも平田委員にはこういう意見があったよというのは、議事録ができる前とかにも、お伝えはしようかとは思いますので。

【永井学芸アシスタント】　鑑賞教室の現場からの声ですけれど、どこの小学校ということは伏せさせていただくのですが、二、三校から、中村研一の作品は子どもにそんなに見せたくないのですよねと言われたことはありました。ちょうど私はこちらで勤務してあしたで丸１年ですけど、モダニズム展の鑑賞教室しか担当していないのですが、ちょうどメインとなっていた作品が戦争画と裸婦が中心だったので、やはり子どもに説明しにくいこと、目をちょっと背けさせたいようなことが中村研一の主題には、今回はお花なので、ぜひこういうときこそ見てほしいのですけれど、どうしても戦争画、裸婦ということに焦点を当てた作品が多いので、小学校の先生は、子どもが見て分かりますかとか、子どもが見て楽しいですか、それということは、ちょっとそれをこちらに聞かれても何の解決策もないのですが、言われたことがございます。

あと、やっぱりなかなか先生方、足が遠のきやすいのは、言葉が悪いですけど、授業が潰れてしまうことと、バスの予約とか日程を組むということがとても煩雑というのが、妨げにはなっているかなと思います。

あと、年に一回、ここに来て見させたところで何になるのかというような、先生方自体がちょっと投げやりというか、諦めモードになっている先生方も少なくはないなという感覚は覚えております。

私は、９校中９校来てくださった去年はとてもうれしかったのですけれど、今回、自由としたところで４校も残ってくれるのだというような気持ちも結構ありまして、それくらいちょっと先生方、やっぱり図工の先生方の負担が大きいので、図工の先生方が本当に４

クラスも５クラスも繰り返しやっていると疲弊し切って帰っていかれるので、そういったことを目の当たりにしていると、９校中４校来てくださるのだという、逆に４校来てくれることに喜びと驚きを感じてはおります。

【山村委員】　確かに主題によっては先生が説明しにくいとか、子どももキャーキャー言ったりとかということがあるので、本当は選択できるといいのですよね。３つぐらい、４つぐらいあって、この展覧会のときに行きたいとか。今、府中はそんな感じですよ。抽象画は見たくないけど、このときは来たいとか、蘆雪はいいけど、蘆雪のとき意外に人が多くて駄目なので、というような選択ができるといいのですけど。確かに中村研一の絵で年に２回ぐらいしか、アールブリュットとこれしかないとなると、なかなかそれは難しいですよね。

今、言ったような図工の先生の頑張りというのに期待するというよりも、校長先生が何らかのリーダーシップを取ってほしいなというか。それが子どもの教育に必要だというふうに校長先生が思わないと、なかなか一担当の先生だけだと本当に厳しいものがあると思います。

【松山委員】　さっき戦争画とか裸婦の話がでましたが、確かになかなか子どもたちには受け入れ難いのですが、でもそのような内容も、やっぱり小さいうちに触れる必要が私はあるかなと思います。一つの手段として、ダイレクトではなくて、中村研一さんの作品を通して知るというのもあるのかなと思います。

あと、分かりにくいとか、そういう作品に対しては、対話型鑑賞みたいなのはされていますか。

【永井学芸アシスタント】　はい、しています。

【松山委員】　なるほど。もともと説明だけではないのですね。

【永井学芸アシスタント】　はい。

【河合顧問】　本当に先生によっては事前にこちらに来て、御自身でいろいろと、学校に戻ってまた、先に勉強会に来てくれる先生もいるし、それを一律のとかはできないので。

ただ、今、それ以前になりつつあるというのですかね。

【鉄矢会長】　人数が多いところは、実は図工の先生が担当ではなくて、担任の先生が引率しながら、多分説明しなければいけない。担任の先生の、多分、美術に対する解像度が低いままだと思うのですよ。

【永井学芸アシスタント】　それもありますね。

【鉄矢会長】　それが多分、一番図工の先生にもこたえるのだと。図工の先生はいいと思っているのだけど、ほかの先生が、これではというのを言われてしまうと、図工の先生はよかれと思ってやっているのに、いいよと思ってしまう可能性は多分あるのだろうなと思います。

ただ、私が今教員養成で教えている中で、やっぱり美術館に行ったことないという学生もいっぱいいるわけです。美術ではない学生は。そこに図工を教えていく中で、美術館に一回ぐらい行けよと思うのだけど、やっぱり自分で解像度を高めていく面白さを知らなければ、行かないですよね。だから、図工の先生が直接解説したところの目の前にいた子どもたちは、多分解像度は上がって、戦争画であろうと裸婦であろうと面白がれたのだと思うのですけど、担任の先生のそばで来て、「先生、これ何？」「裸だね」、そのぐらいしかしゃべれない先生たちも多分いると思うのです。

だから、続けることで、実は学校の先生の解像度もそれぞれも上がっていくのです。子どもたちだけのためではなくて、先生たちも、実は美術館そんなに行っていない先生もいらっしゃるので、その先生たちの解像度を上げるためにもやっぱりあったほうが絶対いいなと。

【山村委員】　今の話は非常に重要な話で、解像度というのは、要するに自分が知ろうとする力ですよね。自分の目のレンズというか、それが広く深くないと、結局みんなエンタメになっちゃうのですよ。楽しい、ましてや楽しからせて、笑わせてみたいな。

【鉄矢会長】　受け身のね。

【山村委員】　受け身の。それだと、いつまでたっても消費者ですし、受け身のあれで終わってしまうから、自分で何か面白がれるとか、しゃべりたいとか、そういうところも小学校のときは本当に必要だと思うのですね。今、先生自体が、解像度の、自分がこういうふうに面白いのだよとかというような、それは全部の分野に通じると思うのだけど、そういうところが先生にないと、やっぱり子どもは、本当、「何が面白いの？」とかという話になってしまいますよね。

【畑島委員】　やはり参加が続いていけばいいとすごく思います。

けれども、おっしゃっていたように、図工の先生とか担任の先生がクラス全員を率いて見ていくというのは、すごく大変ではあるとは思うのですね。お子さんたちも今いろんなお子さんがいて、マナーを持って見学とおっしゃっていましたけれども、マナーをできないようなお子さんにこそ、こういうところでまず触れてほしいというか。そういう子ども

たちが見られるように、やっぱり支援する手とかがどうしても必要ではあると思うのです。先生と担任だけでは、もう無理だと思うのですよね。

【鉄矢会長】　社会が支援してあげる。

【畑島委員】　そういうお金のこともあるし、時間のこともあるのだけれども、何らかのサポートを入れて、続けていけるように。

東京都美術館がとびラーさんというのを募集して、鑑賞する手伝いをする人を育てるところからやっていますよね。

【山村委員】　そうですよね、ファシリテーターがいます。

【畑島委員】　大きな目で見れば実はそういう力も必要だけど、はけの森で、小さいところだけど、何らか小さいなら小さいなりにやっていく方法が見つかればいいなとはすごい思います。

【山村委員】　そうですね。

【鉄矢会長】　それこそうちの美術科の学生がそのときだけサポートにスポットで入れるような学校の仕組みができると、本当にいいですよね。

確かに今の学校の多様性を認めていると、どうしても美術の作品のそばには連れていけない子というふうに先生が判断している子がいるのだと思うのです。その子がいると思うと、ないほうがいいなと思っている。事故を起こしたら、先生のせいになってしまうから。そういう負の責任のスパイラルが、こういうふうに楽なほうに行くのですよ。それがちょっともったいないなと思っていて、先生のせいでもないのですよ、その子がそうなっているのも。

【山村委員】　そうですよね。家庭の問題もあるし、家庭のほうは先生にやってほしいと思っているところもあるだろうし、非常に難しい問題ですよね。

【鉄矢会長】　もしかしたら、その子がバラの絵を見て、はっとするかもしれないし。

【山村委員】　そこにいない人、中村研一も亡くなってしまっているし、奥さんも亡くなっているし、だけどその人が書いた痕跡がそこにあって、それを見て自分で感じるものがあるということの持っている意味というか、継承していく、それを分かってもらうと。本当に教育の原点だなと思うのですよ。

【松山委員】　何かサポーター制度みたいなのがつくれるといいような気はしますけど、サポーターさんの管理がまた大変ですよね、きっと。

【河合顧問】　正直、客観的に外部の人間的に見ますと、幾つかの美術館もよく分析し

ていますけども、ここの今のスタッフの人数では、無理です。たとえ館長がやりましょうと言ったとしても、できないと思いますね。それだけしたら、もう日常的に残業だし、ところが小金井市はルールで何時間いては駄目となっているし、あとは自宅に帰ってからみんながやっているということになってしまうと思います。現実的に今の体制では無理です。

やっぱりきれいごとでは無理な部分が現実として、今、あると思うのですね。だから全部できないというのではないのですけど。

一番は、それはボランティアという形で、学生さんに来てもらってやったこともあるのですけど、それだけの状況、そのときはそういうプロジェクトだけだったのですけども、常に、例えば今先ほどとびラーの話が出ましたが、東京藝術大学の方と、当時僕が関わっていたのですけども、東京都がお金を出して、それで特任の準教授だとか助手というのを藝大のほうに抱えてもらって、それで一緒になってやっていくという形を取った。やっぱりそれだけお金もかけているし。

【山村委員】　かけていますね。

【河合顧問】　だから、ぱっと見ると、みんなボランティア的にやっているように見えるけども、それを教育していくという形だけで、物すごい労力というのも事実だと思います。

僕はだから、それが、みんながボランティアで来てくれよというのは、今の状況では、例えばここに対するアドバイスとして僕はできないですね。せいぜい「河合先生の頼みだから、頼むよ、一回講演会行ってくれない」とか言うぐらいになってしまうわけですけど。

【鉄矢会長】　とにかく今回は、全校ではなくて４校になったということの中で、４校残ってくれたと、うれしいという意見もあります。でも、やっぱり運営委員会としては、４校ではなくて全校に、子どもたちに機会を与えるということの意味がやっぱり重要ではないかなというような形で、この議論を一度議事録として残していただきたいという格好で、よろしくお願いします。

【山村委員】　お願いします。

【鉄矢会長】　そのほかございますでしょうか。

私から１点ですけども、新しい方が来ているので、４月からの年間スケジュールとなっているのですけれども、この美術館、実は年度をわたって展覧会をやるというのがずっと続いていて、ここで３月のギャラリートークが入っているのも不思議だと思うのではないかなと思うのです。これ、多分「花を描く」が実は３月末ぐらいから始まってという予定

だったのか、どうだったのか分からないのですけど、年度では切れているのですが、展覧会はこういうふうに年度をわたって。まるきり年度を切っていくと、４月の頭にしばらく展覧会がないという美術館になってしまうので、そういう立てつけを取っているというので、事務局、説明よろしいでしょうか。

【事務局】　まさに会長のおっしゃるとおりでして、今やっている所蔵作品展につきましても、市役所的なことを言うと、令和７年度予算で実施しているというような背景がございます。

【鉄矢会長】　４月の一番いいときに閉まっている美術館はないだろうというような、ずっと学芸員の皆さんが工夫してつくっていったスケジュールで、月、火が休館になるとかでしたっけ。

【事務局】　月、火、水です。

【鉄矢会長】　月、火、水を休館にして、少ない学芸員で何とか回す工夫をということでやっております。

【松山委員】　展覧会がない間というのは、学芸員の方は調査、研究をされているのですか。クローズしている間はどのような状況ですか。

【河合顧問】　当然、準備の期間というのがあったり、調査に、例えば国会図書館に行って、中村研一のどこの部分を調べていくとか、それが展覧会に反映するとかという形を取っています。展覧会がないときのほうが忙しいですよね。オープンしてしまえばですけど。

【事務局】　今ちょっと未確定となっているところですけど、例えば夏休みとかですと子ども向けのワークショップをやったりとか、そういったものも、実際実施はしているところでございます。今回につきましては、まだその辺りの詳細が定まっていないところもあるので、記載はしていないですけれども、そうやって企画展の間とかにもなるべく来ていただけるような工夫などはしているところでございます。

【松山委員】　使っていない期間の展示室を貸し出すとか、そういうのはやっていないんですか。

【事務局】　今のところ貸出しとかいうところまでは、ちょっとできていないところでございます。

【鉄矢会長】　あと、作業スペースがないので、作業スペースになっている場合があるのではないですか、絵を広げて点検しているとか。まだ全部収蔵品の整理が終わってない

のですよね、多分。全部終わったのですか、中村研一のリストアップは。

【河合顧問】　一応は終わっております。それ以外に、ちょっとそれが該当するか分からないけど、例えば、この間は市民結婚式をやったというのも報告があったりしました。ほかのシンポジウムみたいなものを、当時の館長もちゃんと発言をするという形で使ったりはしていますね。ただ、よそに貸すという形の、いわゆるレンタルスペースとしての認識は持っていないと思います。

空いているからといっても、本当は空いてる気はないのですけども、予算とかとの関係で結構縮まっちゃっているということですよね。

【松山委員】　例えば施設によっては、展覧会があるときは自分たちが展示に使うけれども、使ってないときはそこをギャラリーとして貸し出しをしているところもあります。私が宮崎で勤めていたところはそうですが、そういった形で、例えば小金井市の有志の市民で展覧会をしますとかいうときに貸し出せると、もう少し利用の稼働率が上がるのではないかと思っての質問でした。

【山村委員】　どれぐらい貸出しの希望があるかとか、どれぐらいの利用者がいるかとかということもちゃんとシミュレーションしないといけないなと思います。設備的なことだとか、また借用料をどのようなふうに設定するかとか、結構大変。管理をどうするのかとか、備品貸出しはどうするかとか、電気代だとかを請求するのかとか、そういうことも含めてやっぱりちゃんと体系化しないと、なかなか踏み切れないですよね。それの検討にも、やっぱり１年、２年は最低かかると思います。

【松山委員】　すぐではなくても、もし長期でといいますか、一、二か月空けてというのであれば、そういう方法もあるのかな。

【河合顧問】　逆に貸すということは、空いているからあした使っていいよということではあり得ないわけですよね。そうしたら、かなりの長いスパンで、半年とか１年前からここの期間の中では貸せますよと公表して、１週間単位とかやっていかなければいけないと思うのです。なおかつ、今度はここのオリジナル、ここは美術館を名乗っているのだから、学芸員を置いてこれをやるのだといったら、それも会期がばちっと決まらない限り、バッティングしてしまうわけです。

そういうトラブルを起こすこともあるわけだから、かなり今年の予算は何とかなんて言っていられない。何年計画の中のきちんとした要求を組まなければいけないのですけども、こういう残念ながら年度だけでやってきているから。

駄目というのではないですけど、やろうとすると、例えば年に一度だけ特別展用に、例えば５０日なり１００日を取って、あとのところをうまく割り振る、貸すという前提を考えたら、それは理論的には可能かもしれません。実際、僕はそういうふうな運営のことをしたこともありますけども、でもそれはやっぱりオリジナルの企画なり、やるというのはきちんと決まっている、ないしは所蔵品を、中村研一をべったり並べて、この中だけでとどめるというだけだったら、それはある程度は融通が利くだろうけども、よそとの交渉なんていうのも入ってきたら、そのようなアバウトなことではできなくなることですね。

【山村委員】　施設管理としては、係長というかがやっていらっしゃるということになるのですかね。管理責任というか、ずっと文化振興係が。例えばもし貸すとかになると、３６５日施設管理となるわけですよね。

【伊藤委員】　コミュニティ文化課がやることになります。

【鉄矢会長】　私の記憶が正しければ、立ち上げの準備委員会のところの中に、外貸しをするかという議論があったのですよ。外貸しはとにかくしない格好で、中村研一記念美術館としてしっかりやっていこう。求めるのは何かと、ちゃんと学芸員を入れて、美術館として回る美術館にしよう。今は、空いているのは好きで空けているわけではなくて、好きで空けるという表現おかしいですけど、本当は常勤がちゃんといて、１日休みの、しっかり市民にもっといろんな企画ができる美術館になるべきだと、運営委員会としてはずっと言っているので。

【河合顧問】　そうでしたね。

【鉄矢会長】　やっぱり学芸員が要らないのという話にはなってほしくないと思っていて。今は、どうしようもない策として閉めるしかないという位置づけの閉め方だと、私は理解しています。

【松山委員】　分かりました。

【鉄矢会長】　そうなんですよ。そこが、うまく運用しちゃうと、この人数でいいんですねと。

【松山委員】　確かにそうなってきますね。

【鉄矢会長】　そうなってきます。

【河合顧問】　貸し出すということだけでも実は結構な、いろいろとスタッフが必要になるはずですよ。例えば照明一つにしたって、勝手にやっていいよといって、電気が飛んでしまったりもするというのが、大学美術館がそういうことになったぐらいだから、全部

チェックが必要になる。そうすると、かえって今よりも、運営することでは、貸出しということはできたとしても、ここのメンテナンスまで含めて、例えば空調が駄目になりました、お金を取って貸しておいて、それで済むものではないですか。もっとシビアに、きちんと貸せる状態をつくらなければいけなくなるというのも事実ですね。

【山村委員】　あと、何に貸すかということがすごく問題ですね。特に、今さっきおっしゃったように、いろんなジャンルがあるから、美術じゃなくてもいいという話になると、貸出しの制限というのは、何の展示だったらいいか。生け花でもいいのかとか、盆栽でもいいのかとか、いろいろありますよね。そういうことも、だから中村研一から継承したこの家を改築してやっている、いわゆる美術館の、あるいは市がそこまでできるのかというのは、もともと寄贈されたものですから。

【河合顧問】　本当に今、確かに空いているというか、やっていない時間が多いから、新聞にも、美術館一覧、博物館一覧にも載っけてもらえないぐらいですよね。

【山村委員】　確かにそうなってしまうのですよね。

【河合顧問】　あそこは、いつもやっていないとなってしまうのですよ。それは本当につらいところだと思うのですけども。何かしらの形ではアピールはしたい。そうすると、ワークショップをやっていたとしても、やっぱり出るのは展覧会ですよね。その場合、幅広くの人に呼びかけられるけども、ワークショップのほうはかなり狭く、最終的には実際ここでも１０人とか２０人の、それはけちなことを言っているのではなくて、そういう直接的に指導できるというと、そのくらいになってしまうことなので、厳しいんですけど。

だから、貸し会場としてどこが必要だということになった場合にはまた別の問題だろうし、駅前の宮地楽器ホールには音楽ホールが上のほうにあり、地下１階には市民ギャラリーもありますけど、あそこで学芸大の工芸の人たちも使ったりしているというのはありますね。

【山村委員】　宮地楽器ホールはどれぐらいの利用率ですか。

【事務局】　ごめんなさい、ちょっとすぐ出てこないので。

【伊藤委員】　でも、結構高いよね。

【事務局】　はい、高いです。

【伊藤委員】　利用率は結構いいです。やっぱり駅前で立地はいいので。

【山村委員】　高いというのは、８０％ぐらい。

【事務局】　そうです、全体では８０％ぐらいあります。

【鉄矢会長】　学芸大学も一生懸命貸そうとしているけど、誰も借りてくれませんから。学芸大学のギャラリーとか、とにかく外に貸しても。

【河合顧問】　建物の、いわゆる敷地の中のものですか。

【鉄矢会長】　ものを借りてもらって、何とかしようといろいろやっているけど、あの距離になるともう全然。

【山村委員】　府中市美術館もそうです。市民ギャラリーがあるけど、そんなに高くないですよ。

【松山委員】　使われないのですね。

【伊藤委員】　宮地楽器ホールはやっぱり駅前にあるし、人通りも結構あるので、多分利用率、集客も見込めるかと。

【鉄矢会長】　あと、東小金井にも何かあるのですよね。

【伊藤委員】　マロンホールですかね。

【鉄矢会長】　いろんな施設が市にあって、そういう中でここはどうあるべきだという、美術館の個性をどう出すかという議論の中では、やっぱり美術館でいこうという。

【山村委員】　前の芸術文化振興計画もそういう話だったのです。

【鉄矢会長】　そうですね。だから、本当に時代の中で変わらなければいけないものは変わらなければいけないと思うのですけど、そこの読みの中でどうするかという。そうすると、そのときに本当に美術館を手放すかになってしまうかもしれないですよ。手放したくないから学芸員を常勤にしろと、ずっと言い続けて何十年ですけど。

【松山委員】　今までの話を聞いていると、マンパワー不足かなというのはすごく感じました。学芸員さんというか、館を運営する側の美術館在勤の方。

【河合顧問】　そうですね。

【鉄矢会長】　そこをずっと、何年に１回でしたか。

【事務局】　４年に一回です。

【鉄矢会長】　４年に一回、提言を書くのですね。それも一回読んでいただいたほうがいいですね。何年にもわたって、ずっと常勤にしろという。

【松山委員】　なるほど。

【鉄矢会長】　言い続けても、なかなか、やっぱり市も予算の中でバランスを取ってやると、駄目です。しかし、バランス取るのは多分財務とか、そちらのほうがしっかりやるべきで、僕らはバランスを取らなくて、ここがどうあるべきかをしっかり言わなければい

けないので、ここがどうあるべきかというものをどんどん出していくということが多いですね。ここで、行政は大変だからと手を引いたら、もっと下がってしまうので。

【伊藤委員】　運営協議会からの提言は認識しているので、よりよい運営体制を取れるようには努力していく予定ではいますので、なかなか実現はできていないのですけれども、そのような形で、常勤の学芸員が入れられるような形で努めてはいきたいというふうに考えています。

【山村委員】　悲願ですよね。

【伊藤委員】　そうですね。

【鉄矢会長】　悲願だし、それは１人というのだったら、またそれも責任がすごく重い学芸員ですもんね。

【山村委員】　でも、常勤１人だよな。

【鉄矢会長】　いるだけでも随分違いますからね。

質問よろしいですね。

では、最後に９番のその他について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】　次回の運営協議会の日程について、この場で御協議いただきたいと思いますので、一旦ちょっと協議のために休憩をお願いできればと思います。

【鉄矢会長】　次回会議の日程調整のために、一旦休憩とします。

（　休　　憩　）

【鉄矢会長】　再開します。

それでは、次回の運営協議会は、１０月１４日、１８時３０分からということでよろしくお願いします。

【伊藤委員】　よろしくお願いします。

【鉄矢会長】　ほかにありますでしょうか。

ないようですので、以上で、はけの森美術館運営協議会を終了します。お疲れ様でした。

――　了　――